

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4590900017
法人名	医療法人武雄会
事業所名	グループホームあおい(葵)
所在地	宮崎県えびの市大字原田2153-6 (電話) (0984) 25-3778
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22 年 3 月 5 日

【情報提供票より】(22年2月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 21 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 14.375人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	平屋 1	階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(2月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	70 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	えびの第1クリニック、市来歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、えびの飯野駅より徒歩10分位の民家に囲まれた住宅地の一角に在る。近隣には利用者がそれまで日常的に買い物をされていた商店が在り、散歩の折には、好物の黒砂糖や飴等を買いに出かけ、挨拶を交わしている。過疎化の影響で昔賑わった駅前通りも閑散としていたが、事業所が開設されたことで少し明るさが戻って来たようだと言われている。地域の住民に喜ばれている。排泄の自立に向けた支援の中で生き活きと生活されている利用者もおり家族からも喜ばれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成21年4月1日開設。初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価を実施するに当たり、評価の意義とねらいについて話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2か月に1回開催し、家族や民生委員、区長、行政職員、地域包括支援センター職員など幅広い立場の人に参加してもらっている。事業所からの報告と共に参加者に意見をもらい、そこでの意見をサービスに活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には常に声をかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望などは検討し、質の向上を目指す取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の馴染みの店に買い物に行ったり、散歩時には地域の人々に挨拶を交わしている。ボランティアの受け入れや事業所での行事には区長を通じて回覧版で案内し、地域の人々に参加してもらっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームあおいが目指すサービスのあり方について、職員一人ひとりの思いを出し合い、全員で事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有している。職員は、利用者に向き合う日々の実践の中で、理念を意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の中には、ホームの近隣の方も居られ、馴染みの店に買い物に行ったり、散歩時に挨拶を交わしている。また、ボランティアの受け入れや区長を通じてホームでの行事等を回覧版で案内し、参加してもらうなど地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するに当たり、評価の意義とねらいについて話し合い、全員で自己評価に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回開催し、家族や民生委員、区長、行政職員、地域包括支援センター職員など幅広い立場の人に参加してもらっている。事業所からの報告と共に参加者に意見をもらい、そこでの意見をサービスに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に相談したり、グループホームを理解・支援してもらおう働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には声をかけ、利用者の状況を伝えると共に、要望などを聴いている。金銭管理については、随時、出納帳をコピーして報告している。近日中にホーム便りを発行する予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまでに家族からの意見や苦情などは無く、家族の来訪時には常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望などは検討し、質の向上を目指す取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよう前向きに取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は法人内外での研修を受ける機会が確保されており、外部での研修内容は会議で発表し、全職員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一部の同業者との交流はあるが、事業者同士協働しながら質向上に向けての取り組みには至っていない。	○	事業所の質の確保のために、県・地区単位の連絡会など、サービスの質を向上させていく目的で結成されている会への積極的な参加を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、事業所に見学・遊びに来てもらったり、職員が自宅を訪ねるなど、本人が職員や事業所に徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に過ごしながらか、野菜作りや漬物作り等食生活文化を教わったり、利用者から「ありがとう」の声かけをして貰う場面がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の関わりの中で声をかけ、意向の把握に努めているが、勤務配置が2ユニットを通したシフト制であるため、利用者一人ひとりの思い・意向・希望の把握が十分に出来ているとはいえない。	○	地域密着型サービスの特徴である少人数の馴染みの関係を築く為にも、利用者本人の視点に立って、関係者全員で話し合い、前向きに取り組んでほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者主体の暮らしを反映した介護計画となるよう職員全員で意見を出し合い、介護計画に活かしている。介護計画を家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、利用者の状態に変化が生じた場合は、随時見直しを行っているが、定期的な見直しは6か月に1回行っている。	○	状態の変化のない場合にも、介護計画の遂行状況、効果などを毎月評価し、利用者、家族、関係者と話し合うなどして評価に基づいた計画を作成すると共に、計画の見直しをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院や墓参りなど必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの一人ひとりの受診状況を把握し、本人・家族などが希望する医療機関で受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度者や終末期のあり方については、話し合いを行ってはいるが方針の統一はされていない。	○	利用者や家族が安心してサービスを利用していくために職員は、日常の健康管理や急変時の対応などについての話し合いを行い、併せて関係者全体の方針の統一を図る為の取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシー確保について認識しており、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言動は見られなかった。記録物はしっかりと保管されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など、利用者一人ひとりの体調に配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注サービスを利用しており、職員は休憩時間に持参の弁当を食べている。食事の後片付けは利用者と職員と一緒に進んでいた。	○	菜園で収穫した野菜を利用したり、利用者と職員と一緒に調理したり、同じ食事を楽める環境づくりを前向きに検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望に合わせて入浴や清拭など柔軟に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	干し柿作りや漬物、梅干し、野菜作り等利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。また、花見やドライブ、外食、お墓参りなど気晴らしの支援を行っている。利用者の一人は、自宅に電話をかけることを日課とされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や希望に合わせて、散歩や馴染みの店への買い物、自宅訪問等戸外へ積極的に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、一緒について行くなど安全面に配慮しながら、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。	○	災害対策マニュアルを作成すると共に、事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら昼夜を通じて様々な発生時間を想定した避難訓練を行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士が行っている。利用者の体重を定期的に測定している。職員は利用者一人ひとりの1日の栄養摂取量をだまかに把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間(兼食堂)、トイレ等共用の場は、明るく異臭も無い。心地良い音量で昔懐かしい音楽が流れており、利用者はゆったりと過ごされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや家族の写真などが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		